

第5回 内航船の廃食油回収・バイオ燃料活用に関する連絡協議会 議事要旨

日 時：2025年4月15日（木）15:30-17:00

場 所：鉄道・運輸機構 第2会議室（Web会議併用）

参加者：日本内航海運組合総連合会、一般社団法人日本旅客船協会、全国油脂事業協同組合連合会、
一般社団法人日本船用工業会、鉄道・運輸機構（事務局）、国土交通省、
豊田通商株式会社、株式会社ダイセキ環境ソリューション、
国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所

議題1 2024年度の調査について

◆事務局、豊田通商、海技研より説明。

○今年度調査としてJRTTで実施した技術調査の結果報告。

◆主な意見コメントは次のとおり。

○バイオ燃料の品質規格に関し、ISO 8217(2017)→(2024)の改訂によりスペックアウトする可能性と、あわせてバンカーレシートへの混合率を含めた記載の方法は整理が必要。

○バイオ燃料の混合方法について攪拌不十分による品質のばらつきが懸念され、今後検討の必要な課題点である、という話を聞いている。

○バイオ燃料使用初期にストレーナーを閉塞させたスラッジは、成分分析等でC重油由来（既存のタンク堆積物）であることを確認すべきであった。

議題2 2025年度の事業計画について

◆事務局より説明。

○当初3年度として立ち上げた本協議会が3年度目となり、今後の方針について要検討。

○当初事業計画にあったガイドラインの作成は、その後国で検討・作成の取組みが進行しているところ、本協議会として新たに着手する必要性が低下している。

○これまでの知見をふまえた情報発信、国の取組みとの連携を中心に対応。また、情報発信のセミナーイベントの開催を検討。

○技術的課題に対しては各者で対応のうえ、情報を共有。

◆主な意見コメントは次のとおり。

○外航船へのバイオ燃料供給などを念頭に、今後はShip to Shipでの供給体制構築が必要となってくるところ、インフラ整備、混合時等の品質の担保について課題解決が必要。国の方で動きがあると聞くので、それをフォローしてもらいたい。

○OSAFに関連し、空港関係では空港近辺の家庭系の廃食油回収が積極的に行われている。港湾についても、周辺の家系廃食油も視野に入れてもよいのではないかと考える。

議題3 協議会参加者からの関連情報の提供

◆構成員（全油連）より説明。

○市場動向の紹介。廃食油の価格は下落、輸出量は増加傾向。国内 SAF 大規模工場の稼働による今後の動向を注視。ほか、国際認証の動向。

○環境省の3ヶ年度事業として令和6年度から実施している、事業系のグリーストラップ浮上油（排水油泥）の回収精製の実証について、概要と現状紹介。あわせて今後、東京都事業として排水油泥の二次精製以降の事業化を検討。需要家の船舶代表として本協議会の座組入りに期待。

◆主な意見コメントは次のとおり。

○排水湯油泥の再利用可の座組みに船主、船用メーカー、研究所も含まれる本協議会として入るのは妥当な形のひとつか（要検討）。

○海事局の検討会にて、一部のバイオ燃料での排ガス臭気に関する話が上がった。排水油泥の再利用にあたって臭いの観点でも確認してほしい。

その他

※特にコメントなし。

次回の連絡協議会

◆次回以降の連絡協議会も、例年同様に年3回程度で実施予定。
年度末には来年度（以降）の方針を検討したい。

（以上）